

Kandai Style

2024.1 Vol.513

関西大学通信

夢

ふるさとのお正月の「食」



ふるさとのお正月の食

2024年を迎えました。

皆さん思い思いのお正月を過ごされたことと思います。

ところで、皆さんのふるさとではお正月に何を食べていますか？お雑煮、おせち料理、お鍋など、さまざまあるかと思えます。定番だと思っていたお正月の料理も、実は地域によって多種多様。

皆さんも一緒に、今まで知らなかったお正月の「食」をのぞいてみませんか？



香川県
なり ゆき しょう た
成行 正汰さん 環境都市工学部4年次生

子どもの頃のお正月は毎年、香川にある祖父の家に行っていた思い出があります。祖父の家は瓦屋根の広々とした平屋建てで、周辺は田んぼなどの田園風景が広がっており、映画で見るとような緑豊かでのどかな場所にあります。訪れるたびに、一昔前にタイムスリップしたかのような感覚になったのを覚えています。

香川といえばやはりうどんです。元旦は、お正月料理と共いうどんも食べます。幼い頃は小麦粉を足で踏んで作った自家製うどんを食べることもありましたが、香川はしょうゆが特産物であることからうどんに合わせるのほだしではなく、**生醤油**をかけて食べていました。普段から食べているにもかかわらず、おせち料理よりもうどんの方が好まれていました。

甘みのある餡入りの餅が入った白みそ仕立てのお雑煮も特徴的でした。最近ではコロナの流行もありしばらく帰っていませんでしたが、香川の特徴を感じるためにも久しぶりに帰りたいと思っています。

沖縄県
「年越しそばは沖縄そば」

大みそかといえば年越しそばですが、沖縄ではそば粉を使わず小麦粉の麺に豚骨やかつお節ベースのスープが特徴の沖縄そばを食べる家庭が多くあります。元々沖縄には年越しそばを食べる習慣がありませんでしたが、1972年の本土復帰以降、製麺所が県外の風習を真似て年越しそばと銘打って沖縄そばを売り出したことが始まりのようです。

〈沖縄・恩納村からお届けするダイビング&観光ガイド https://www.pinkmarlinclub.jp/diving/tourist_guide/jyoho/osyotatsu (参照2023.10.23)より引用



京都府
やぎ まりな
八木 真里奈さん 外国語学部4年次生

私の実家では、**「頭芋」を丸ごと入れた白みそ仕立てのお雑煮**を食べる風習があります。頭芋の大きさはこぶしほどあり、お雑煮を食べ切ってからでないとおせち料理を食べられないという家のルールがありました。今では苦労せずに食べられるようになりましたが、幼少期は苦労して食べていたことを今でも鮮明に覚えています。

京都でおせち料理の縁起物とされる頭芋は、上のイラストのように芽が出ており、「芽が出るように」という願いが込められています。当時は「これを食べ切ることによって本当に芽が出るのかなあ」と半信半疑でしたが、今年から憧れの企業に就職することが決まり、「本当に御利益はあったのだな」と20年越しに感じています。長く受け継がれてきたこの風習を、後世にもしっかり伝えていきたいです。



北海道
「大みそかにおせち」

北海道では大みそかの夜からおせち料理を食べる「年取り膳」という風習が残っています。旧暦では日暮れから新しい1日が始まるとされており、12月31日の夕刻から新年とされていたことから始まった習わしです。

また、おせちの定番料理に「口取り菓子」があります。これは鯛やエビなどの縁起物をかたどった和菓子で、北海道では鯛などの食材が土地柄手に入りやすかったため、その代わりにお菓子で表現したといわれています。

〈北海道農政事務所 https://www.maff.go.jp/hokkaido/suishin/shokuiku/toshinose_gyoji.html (参照2023.10.23)より引用

石川県
「紅白の鏡餅」

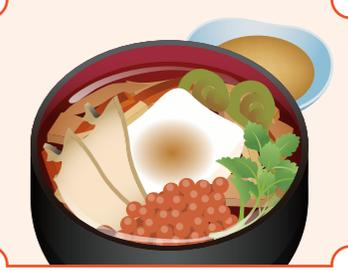
鏡餅といえば上下共に白餅のイメージがありますが、石川では上が赤で下が白の紅白になっています。そのいわれとしては、加賀藩前田家に献上されたものに由来しており、前田家が祖とした菅原道真公ゆかりの紅梅・白梅にちなんでいるなどの諸説があります。

〈金沢日和 <https://kanazawabiyori.com/editors/2022/12/61903.html> (参照2023.10.23)より引用

地域によってさまざま
多彩なお雑煮

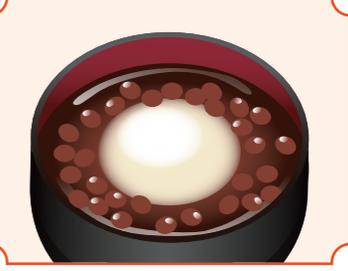
岩手県

餅を取り出して
甘いくるみだれにつけて食べる
「宮古くるみ雑煮」



鳥取県

甘い小豆汁に丸餅を入れた
「小豆雑煮」



福岡県

アゴのだし汁にブリを入れた
「博多のブリ雑煮」



〈農林水産省 https://www.maff.go.jp/j/pr/aff/2001/spe2_03.html (参照2023.10.23)より引用

物流の2024年問題 を考えてみよう

昨今、働き方改革によって時間外労働の上限規制が適用されることにより、物流の停滞が懸念される「物流の2024年問題」が話題となっています。インターネットショッピングが一般的になり、私たちの生活にも広く影響が出るこの問題について、学生の皆さんにアンケートを実施しました。この機会にぜひ一緒に考えてみましょう。

アンケート期間：2023年10月20日～11月10日 対象者：学生 回答者数：216名

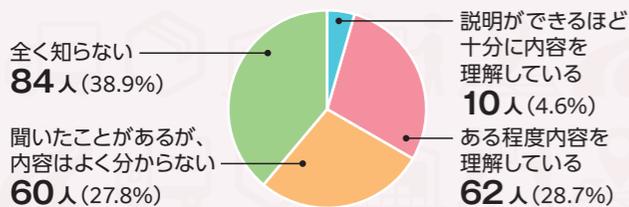
モノが運べなくなる!? 「物流の2024年問題」とは



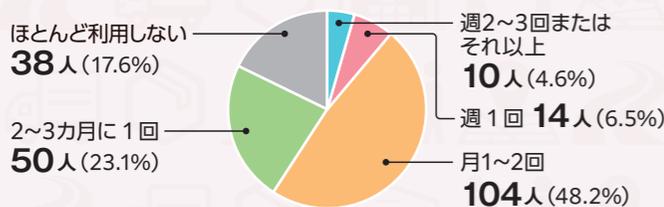
2024年4月から「働き方改革関連法」に基づき、トラックドライバーの時間外労働が年960時間に制限されます。労働環境が改善される一方で、何も対策を講じなければ2024年度には14%、2030年度には34%の輸送力が不足する可能性があるとして指摘されており、「物流の2024年問題」といわれています。



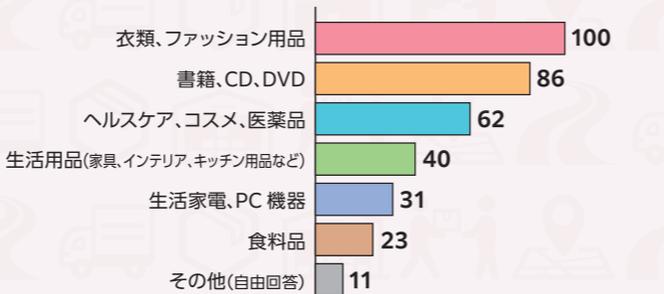
Q1 「物流の2024年問題」を知っていますか



Q2 インターネットショッピングを利用する頻度を教えてください

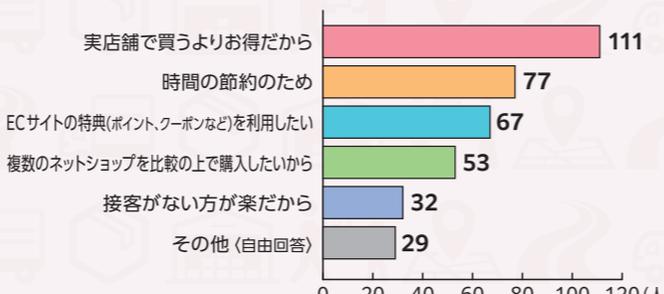


Q3 インターネットショッピングではどのような物をよく買いますか (複数回答可)



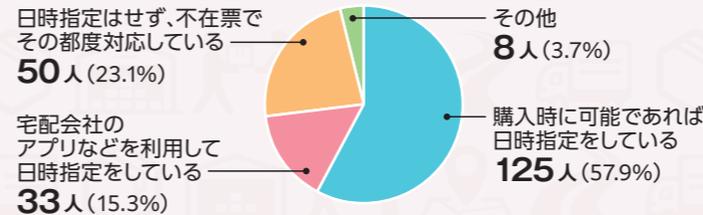
その他回答 趣味用品、部活・サークルで使う用品、アニメグッズなど

Q4 インターネットショッピングを利用する理由について教えてください (複数回答可)



その他回答 “店舗で売っていないから” “中古本取扱店のアプリで、欲しい書籍を取り寄せるために必要だから” など

Q5 宅配の日時指定サービス利用に関して当てはまるものはどれですか



「物流の2024年問題」の対策として実行していることや利用したいサービス、新たなアイデアなど意見を聞きました

置き配に関すること

- 基本的に置き配にしています。高価な物については、確実に在宅している日時を指定している。(外国語教育学研究科1年)
- 宅配ボックスを設置している一軒家も増えてきたと感じる。(政策創造学部3年)

受け取り日時指定に関すること

- 配送業者のアプリを利用して日時指定している。再配達になると届くのが遅れ、宅配業者の手間がかかり、双方共に負担。(法学部3年)
- 日時指定は1～2時間など時間幅が広いが、15分以内に到着するなど短い時間の幅で宅配の到着時間が分かるアプリがあれば良い。(理工学研究科2年)

実店舗購入に関すること

- 本当に欲しい物以外は買わないこと、よっぽど安くなっている時以外はお店に買いに行くことにしている。(文学部1年)

郵便局やコンビニ、駅など自宅以外での受け取りに関すること

- 駅などに設置の宅配ボックス「PUDOステーション」を使ってみたい。趣味の物など、人に見られたくない物品を対面で受け取るのは恥ずかしい時もあるので。(法学部2年)

まとめ注文・受け取りに関すること

- インターネットショッピングを利用する際はなるべく一度にまとめて頼むように心掛けている。(社会学部3年)

その他意見・アイデアなど

- コンビニで宅配物を受け取れることを知らなかったため、今後試したい。地方の実家では配達に3日ほどかかるのは普通だったので、日数を要するのは仕方ないと思う。急ぎの物はインターネットで買わない。(文学部1年)
- 急なゲリラ豪雨など、天候悪化や災害時にも混乱しない流通網の構築が必要だと感じる。(商学部3年)
- 梱包を簡素化して集積量を増やし、一度の配達量を増やす。(社会学部4年)
- ドローンの配達が実用化すれば便利になると思う。(文学部3年)
- 宅配事業所で受け取る値引きされるサービスがあれば利用したい。(人間健康学部3年)
- 2024年問題は時間外労働時間の上限の設定だけでなく発生するものではなく、物流業界の多重下請け構造やデジタル化の遅れなども原因だと思ふ。(社会安全学部4年)
- 玄関に「置き配可」という札があれば再配達せずに済み、負担が少ないという配達者の意見をニュースで見た。(総合情報学部2年)

物流に関するクイズ



問題 1

トラックドライバーの有効求人倍率(求人数÷働きたい人の数)は、全産業と比較してどのくらい高いでしょうか
① 約1.25倍 ② 約1.5倍 ③ 約2倍

正解は③

解答結果は①18人②69人③129人でした。人手不足が深刻化すると、この数値が高くなります。厚生労働省の統計では、自動車運転手の有効求人倍率は2.68倍と、全職業平均の1.17倍に比べて2倍以上高くなっています。

厚生労働省「一般職業紹介状況(令和5年8月分)」について 参考統計表 <https://www.mhlw.go.jp/content/11602000/001149674.pdf>(参照2023年11月13日)

問題 2

年間約50億個に及ぶ宅配便のうち、再配達になる荷物の割合は約何%でしょうか。
① 約20% ② 約10% ③ 約5%

正解は②

解答結果は①165人②40人③11人でした。国土交通省による調査では、2022年10月の宅配便の再配達率は約11.8%でした。

国土交通省 報道発表資料【令和4年12月9日】
https://www.mlit.go.jp/report/press/tokatsu01_hh_000645.html
(参照2023年11月13日)



まとめ

「アンケートに見る関大生の意識」

アンケート回答者のうち、「物流の2024年問題」について「十分に理解している」または「ある程度理解している」と答えた学生は、「よく分からない」または「全く知らない」と答えた学生の約半数にとどまりました。一方で、インターネットショッピングを利用する学生は全体の約8割を占め、配達の日時指定をしている学生は7割以上であることから、インターネットを通じた買い物が日常化しており、再配達防止の意識が浸透していることが分かりました。全体的に、費用や時間の面でメリットがあるという理由でインターネットショッピングを利用する学生が多く、「コスパ」「タイパ」重視の傾向があることがうかがえます。



PROFESSOR'S COMMENTS

政策創造学部 宮下真一教授

「物流の2024年問題」によって、物流に関わる事業者は厳しい状況に置かれています。普段私たちが利用するインターネットショッピングは便利ではありますが、再配達を事業者が強いられると事業者の配送コストが高くなります。一方

で、利用者は必要な時に必要な量の荷物を受け取ることを望んでいますが、利用者の要望が行き過ぎると事業者の大きな負担になります。このようなミスマッチをなくすためには利用者の意識改革が必要です。

つまり、配送にかかるコストを単純に事業者が負担するコストとして考えるのではなく、社会的なコストとして考えて、社会

全体でこのコストを分かち合うという考え方が大切です。そのためには一定の送料の負担を利用者が受け入れる必要があります。それによって事業者の経営環境の改善を進めることができれば、道路の渋滞や騒音・事故などの減少にもつながる可能性があり、結果的に事業者と利用者の望ましい関係が構築できます。

次回のテーマは…「関大生のボランティア活動」

本学では2005年にボランティアセンターを開設して、さまざまなボランティア活動を支援しています。過去のアンケートでボランティア活動への参加理由を尋ねると、社会勉強のためという学生が多かったですが、最近ではどうなっているのでしょうか。

3月号では、学生の実態を調査し、卒業後もボランティア活動を続けていこうという意識はどの程度なのかを考えてみたいと思います。

運輸業／営業

日本通運株式会社 中井 新菜さん

滋賀県立石山高等学校出身
2020年外国語学部卒業

個人の荷物から工業用タンクまで コミュニケーション力と語学力を生かして 約30カ国の輸出入を支える

中井新菜さんは、日本通運株式会社で国際貿易の営業事務を担当しています。海上輸送に関する顧客の申請書類作成のサポートや貨物の輸送手配など、輸出入に関する業務が主な仕事です。

海外で予定通りに荷物が届かないことを経験してから物流の仕組みに興味を持ち、運輸業界を目指した中井さん。入社後は業界の基礎知識をはじめ、国ごとに異なる申請書類や法律について学び、できることを増やしていきました。今ではアジア方面を中心に約30カ国の輸出入に対応しており、語学力を生かして海外と日本の橋渡しに貢献することにやりがいを感じていると言います。

入社1年目には、配送トラックの手配を失念するという大きなミスもありましたが、幸いにも直前に気付いて配達先へ予定通り荷物を届けることができ、それからは予定のリストを3重にチェックするなどの工夫を凝らすようになったそうです。

多種多様な荷物を取り扱う中で、工場の部品などの大型貨物は、道路の通行許可や海外とのやりとりなどに手間も時間もかかります。しかし無事輸送が完了し、お客さまに感謝の言葉を掛けられた時に「これからもっと頑張ろう」と意欲が湧くと語ります。

学生時代はアメリカのオレゴン大学へ留学。帰国後に国際協力を学ぶゼミに入り、カンボジアでの国際支援や台湾でのプレゼンテーション大会出場など、意欲的に取り組みました。「積極性やコミュニケーション力など、仕事をする上で必要な基礎能力を培うことができたと思います」と学生時代を振り返ります。

将来は海外勤務を希望しているため、今のうちから海外研修にも応募しているそうで、自身の経験を踏まえて「学生時代から積極的に海外へ出てほしい」と話します。最後に、「個人のインターネットショッピングから企業間の国際貿易まで、物流は現代に欠かせないインフラです。自分の力を試したい人はぜひこの業界に飛び込んでみてください」とエールを送りました。

ある1日のスケジュール

8:00 出社・メール確認
9:00 体操
9:10 営業チームミーティング
9:20 輸出入に関わる各種手配
12:00 昼休み
13:00 輸出入に関わる各種手配
16:00 見積作成
17:00 退社



必須アイテムは、ノートPC、名刺、携帯電話、電卓です。現場からの連絡にすぐ対応するために携帯電話は常に持ち歩いています。

Sales team

VIVA!!

学び易



文学部 総合人文学科 国語国文学専修

「国語国文学専修ゼミⅣ」

まつもと おおき
松本 大 准教授

いにしへの物語から今の自分たちを考える

『源氏物語』を題材に、自分の考えを相手に伝える力を育む

松本大准教授のゼミでは、日本文学の原点ともいえる紫式部の『源氏物語』の研究を行っています。平安時代の古典文学の基礎知識と技法を体系的に学びながら、多角的な視点や自分の考えを相手に伝える力を身に付けることが目標です。

3年次に作品へのアプローチ方法を学習し、4年次ではそれぞれ卒業論文に沿った研究を行います。今年度の3年次生は『源氏物語』五十四帖の中から、光源氏を巡って二人の女性の人間ドラマが繰り広げられる第九帖『葵』を担当して読解しています。春学期は古典読解の素養を学びながら、それぞれが担当している箇所自分なりの読み方を発表しました。秋学期には『葵』で興味を持った場面を学生自身が選び、解釈を深めていきます。「全集で示されている現代語訳は一例に過ぎません。ある単語が何例登場するか、敬語の有無、鎌倉時代や室町時代の注釈書など、解釈の根拠となるさまざまな検討方法を用いて、学生一人一人が自分だけの作品世界を見つけられるようにサポートします」と松本大准教授。さらにゼミ発表では、さまざまな解釈の中でなぜその解釈を選んだのか、根拠をもって自分の意見を述べる力を身に付けていくそうです。

一般企業に就職するゼミ生が大半で、卒業後に古典を使う機会はほとんどないかもしれませんが、実社会では人それぞれの主張に、その人なりの正解が存在しています。ゼミで学んだ「自分の考えを伝え相手の意見を聞く」という経験から、多様な正解が存在する意味を考え、気付きを得てほしいと松本大准教授は語ります。

最後に「古典は今の自分たちと切り離された世界の物語だと感じる人が多いと思います。しかし千年前の人、心の動きや人間関係の悩みは現代の我々と同じで、そこに気が付くと古典はぐっと身近になります。脈々と読み継がれる古典作品には変わらない人の心が表現力豊かに描かれています。日本文化の継続の上に自分たちがいること、そして古典の普遍的な面白さに触れてほしいと思います」と締めくくりました。



おおつき はるか
大槻遥香さん(3年次生)



平安時代の文学を深く学びたいと考えて、松本先生のゼミに入りました。「源氏物語」の葵巻を題材に論理的な読み方や深く考える方法、そして根拠を示して発表することなどを学び、ものの見方が広がったように感じます。先生の話がとにかく面白いので、古典に興味がある人もない人も楽しく取り組めるゼミです。将来は教育を通して子どもたちに関わっていきたくと思っています。

かしばぎ ゆうの すけ
柏木優之介さん(3年次生)



松本先生の「名作を読む」という授業で『源氏物語』の解説がとても面白かったため、このゼミを選びました。先行研究を参照しながら自分の解釈を発表する中で、深く考えアウトプットすること、さまざまな意見を取り入れて考えを深めることを学びました。学生同士の仲が良いことも、このゼミの魅力です。人と話すことが好きなので、営業職に興味を持っています。

厳粛な雰囲気で行われる妙見山参り

体育会と応援団の新春研修会「妙見山参り」。毎年1月に行われており、今年は1月5日に実施しました。でも、なぜ1月に妙見山にお参りをするようになったのでしょうか。そして現地ではどのようなことが行われているのかを、体育会本部の学生に聞きました。

卍 必勝祈願の妙見山参り

妙見山参りが始まったのは1960年1月のこと。大阪北部能勢の妙見山にある妙見寺に応援団員がいたご縁で、体育会と応援団による妙見山参りが始まりました。『関西大学応援團史』によると、当時の応援団長と体育会本部長らが、体育会と応援団の親睦と両者の発展を祈念して企画したものとあります。現在は体育会本部役員、体育会各部の主将、主務の幹部および応援団が一堂に会し、必勝を祈願するとともに、各部の目標と意気込みを報告する行事として続いています。

卍 奉納する応援団の妙見拍子

標高660mの妙見山頂に到着すると、そこは底冷えのする「日蓮宗霊場能勢妙見山」。新年早々の厳粛な雰囲気の中、応援団による妙見拍子を妙見山に奉納することから始まります。その後、本殿に体育会役員、応援団、大学関係者が入り祈禱が行われ、各部幹部たちはそれぞれ新年への決意を新たにします。祈禱が終了すると昼食・懇親会です。以前は妙見山にある「よろずや旅館」の2階を貸し切って食事をするのが定番でしたが、旅館が廃業したことから、現在ではバスで近くのホテルまで移動して食事をし、最後に全員で応援歌と逍遙歌を斉唱して行事を締めくくります。

前体育会本部長の玉井凜さん(社会学部4年次生)は、「妙見山参りが新幹部として初めての行事となります。昨年は体育会本部長として気を引き締めて参加しました。この1年間、良い体育会本部、良い体育会にしたいと意気込みました」と振り返りました。



▲ 妙見拍子を奉納する応援団



▲ 全員で逍遙歌を斉唱する

卍 士気を高め、団結する

このような伝統行事でも、コロナ禍にあった2021年と2022年は少人数での実施となりました。コロナ前の2019年には約160人が参加しましたが、2022年は体育会と応援団の幹部のみで行ったため参加者は7人だったそうです。

時代と共に変化する妙見山参り。これからの妙見山参りについて玉井さんは、「妙見山参りはみんなで作り上げる大きな行事であり、今後も絶対に続けていってほしいです。一致団結して頑張ろうという気持ちで、関大カイザーズの団結力につながると思っています」と話します。

また体育会本部長の和泉采里さん(社会学部3年次生)は、「妙見山参りまでの準備には時間がかかりますが、実際に行くときと景観も良く、空気も澄んでいて、楽しみながら士気を高めることができます。新年の始まりとして、今後も盛大に開催したいと思います」と語りました。



▲ 2019年には約160人が参加した

(写真提供: いずれも関西大学体育会本部)



文学部 3年次生

野中 結衣さん

チームワークから生まれるよさこい踊りの迫力
互いを尊重し、ベストを尽くすことが大切

野中結衣さんは、関西大学学生チーム^{かんまえ}“漢舞”に所属。よさこいサークルとして、オリジナル演舞作品を年に1本創作し、各地で開催される祭りに参加しています。

高校ではチアリーディング部で活動していた野中さん。大学ではダンス系のサークルに入るつもりでしたが、漢舞のSNSの投稿と動画を見て「やってみたい!」と心を動かされ、サークルへの参加を即決しました。

野中さんは踊り子としてはもちろん、2年次生の時は練習の段取りをする練習班、そして3年次生になると最上年次生として、出場する祭りで大賞を狙うための環境づくりと、運営サポートなどに貢献しました。

「全身全霊を漢舞に傾けた大学生活でした。中でも思い出深いのは、市民参加型の踊るお祭り『こいや祭り』です。この祭りには審査があり、8チームがファイナーレに進出できますが、1・2年次生の時には進出することができず、とても悔しい思いをしました。その後はリベンジすべく、できることは全てやりました」と振り返ります。授業に出席しながら課題をこなし、空いた時間はアルバイトで地方遠征の費用を稼いで、動画で演技研究をして自主練習を重ねました。努力の甲斐あって、3年次生では演舞作品『絶景かな』でセンターに抜てき。そしてついに2023年の『こいや祭り』ではファイナーレに進出しました。「荒天のため決勝の舞台は中止となってしまいましたが、ファイナーレ進出が決定した瞬間の感動は忘れられません」と当時の喜びを話します。

漢舞で学んだのは、チームワークの大切さです。「それぞれが精一杯頑張っているからこそ、時にはぶつかることもあります。互いが目指すものを理解し合い、力を合わせることで素晴らしいステージが完成します」と話します。

これからはそのパワーで卒論や就職活動に向かいたい、という野中さん。最後に「漢舞での3年間は私にとって宝物のような時間でした。皆さんも思い出した時にキラキラ光るような何かを、大学生活で見つけてほしいと思います」と笑顔で語りました。



演舞作品「絶景かな」でセンターを務める野中さん

今回は、野中さんからのご紹介で村田菜那子さん(総合情報学部3年次生)が登場。お楽しみに!



Yui Nonaka

学部・研究科・併設校トピックス

法学部 / 法学研究科

秋学期定期試験に向けて

1月は「秋学期定期試験」が実施され、多くの試験は対面での実施となります。春学期定期試験の成績が良かった学生は、その調子で学習に取り組んでください。成績が振るわなかった学生は、まずは原因を分析し、学習・試験対策のやり方を改めるなど、より一層の努力をして試験に臨んでください。成績評価・履修単位数は、専門演習(ゼミ)の履修選考基準の一つとなる場合もありますし、インターンや就職などの学外活動にも影響を及ぼします。秋学期定期試験、体調を管理しつつ、頑張ってください。

(学部学生相談主事 佐伯和也教授)

文学部 / 文学研究科 東アジア文化研究科

ヨーロッパの大学院生との研究交流

文学研究科・東アジア文化研究科では「EU-日本学教育研究プログラム」という国際交流プログラムを開設しています。ヨーロッパの協定校の大学院生と相互に現地訪問し、研究交流を行うプログラムで、コロナ禍の期間はオンライン交流にとどめていましたが、今年度は現地交流を再開し、9月にはルーヴェン大学(ベルギー)とチューリッヒ大学(スイス)の院生を関大に迎え、11月には関大の院生が同大学を訪問して、研究発表会を実施しました。久々に行った対面での懇親会も大いに盛り上がったようです。

(副学部長 日高水穂教授)

経済学部 / 経済学研究科

ゼミナール大会参加のすすめ

今年度も多くの経済学部生が経商合同ゼミナール大会や他大学とのインターゼミナール大会に参加しました。ゼミナール大会は、自分が興味を持った研究の成果を他人に報告し、その成果に対してさまざまな意見を持った人と議論し、自分の考えを確立させる良い機会です。大会参加に向けて聴き手に興味を持ってもらえるような発表を準備するのはとても大変ですが、大変な分、大会を通して学生は大きく成長します。研究発表に挑戦してさらなる成長を目指してはいかがでしょうか。

(副学部長 石井光教授)

各学部・研究科・併設校のさまざまな活動や取り組みなど、トピックスや皆さんへのメッセージをお届けします。

商学部 / 商学研究科

商学研究科の早期卒業制度

商学部は、5年間で商学部卒業(学士の取得)と商学研究科博士課程前期課程の修了(修士の取得)ができる早期卒業制度「商学部・商学研究科5年一貫教育プログラム」(学部3年間+大学院2年間)を導入しています。通常の学部卒業と比べて、プラス1年で修士の学位まで得ることができます。商学部の皆さんにも活用をお勧めします。

なお、制度の利用には成績等の所定の条件があります。関心のある方は、詳細を教務センターで確認してください。

(副学部長 石田和之教授)

社会学部 / 社会学研究科

学生生活の成果をまとめよう

新年が始まる1月は、4月に始まった年度の締めくくりでもあります。大学生生活の締めくくりといえば卒業論文。社会学部では全ての学生が卒業研究レポートを書くこととなりますが、その締め切りも1月です。自分の議論を整理して、説得力のある文章を今までにないボリュームで書くのは大変ですが、その分やり終えた充実感も大きく、卒業時の学生アンケートでも高い満足度を誇っています。3年次生までの皆さんも、試験やレポートで秋学期の成果をまとめ、新たなチャレンジに踏み出しましょう!

(副学部長 酒井千絵教授)

心理学研究科

客員教授講演会を実施しました

「セラピストが感じることを心理臨床に活かす」と題し、2023年10月30日、吉良安之先生(九州大学名誉教授)にご講演いただきました。吉良先生は、セラピスト・フォーカシングと呼ばれる新しい技法の第一人者です。池見陽教授の司会で大学院生を中心とする聴衆の皆さんが熱心に耳を傾け、公認心理師としての心構えやカウンセリング技術の向上について、議論を深めるひとときになりました。心理学研究科では、今後もさまざまな取り組みを通して、大学院教育の活気と魅力を高めていきたいと思っております。

(研究科長 申崎真志教授)

政策創造学部 / ガバナンス研究科

試験の季節

1月に入り、試験の季節が到来しました。皆さん、準備は万端でしょうか?私たちの人生と試験は切っても切れない関係にあります。卒業後も資格試験や昇格試験など、さまざまな試験に追われます。そうした試験を乗り越えていくためには、大学時代の講義や試験を通じて自分なりの勉強の進め方や試験準備の方法を確立することが大切です。自身の専門分野の理解を深めることはもちろん、自分らしい勉強と試験準備の方法論を確立することも念頭に置きつつ、試験に向けて準備を進めてください。

(河崎信樹教授)

外国語学部 / 外国語教育学研究科

留学経験を生かした地域連携事業

外国語学部では、多くのゼミが開講され、学生は自ら研究テーマを選び、専門的な知識を深めていきます。私のゼミでは、学生たちが自身の創造力と留学経験で養った英語力を生かして、大阪の魅力や国内外に伝える観光パンフレットや動画を制作し、観光産業の振興に取り組んでいます。

(井上典子教授)



人間健康学部 / 人間健康研究科

Renewal! 人間健康学プログラム群

2022年度から新たに「人間関係学プログラム群(人間関係学プログラム、ユーモア学プログラム、地域デザイン学プログラム)」がスタートしました。さらに2024年度には、「臨床心理学プログラム」を開設します。2023年度春学期の授業・学生生活に関するアンケートにおいて、「学び方に関して多様な選択肢を用意していると思う」と「学生が自分に合った学び方を選べるように工夫していると思う」の項目では、良い結果を得ました。今後も学生のニーズに応えられるよう、多様な学びを提供していきたいと思っております。

(浦井忠昭教授)

総合情報学部 / 総合情報学研究科

キッチンカー登場!

本学部の友枝明保教授らとイオンモール株式会社による共同研究の一環として、高槻キャンパス内にキッチンカーがやってきました。これにより1時限目から5時限目まで、食事を提供する環境が整いました。期間は秋学期中となります。ぜひご利用ください。(学部長 名取良太教授)



社会安全学部 / 社会安全研究科

ワークショップに参加(兵庫県朝来市)

2023年7月、朝来市地域公共交通ワークショップに参加してきました。本ワークショップは、朝来市民から公共交通に対する意見や要望を聞き、市の新たな公共交通体系の確立に向けた方針決定を行うことを目的に毎年開催されています。吉田ゼミの学生は、市民の皆さんと朝来市における公共交通の問題点と改善策について話し合ってきました。

関西大学は2022年7月に朝来市と連携協定を締結しました。これからも朝来市と相互に協力し、活力ある地域づくりに寄与してまいります。(吉田裕教授)

関西大学北陽高等学校

活気が戻ってきました

9月末に文化祭を実施しました。今年は4年ぶりに模擬店を開設し、外部の方々にも入場していただきました。校内は大にぎわいで、イベントは満員御礼、各店もほぼ完売御礼となりました。行事に注いだエネルギーを、今後の学校生活にも活用してくれると信じています。

(教頭 吉村聡人教諭)



システム理工学部・環境都市工学部・化学生命工学部 / 理工学研究科

喉元過ぎても忘れまい

これから春先までは1年で最も寒い季節ですが、つい4、5カ月前までは、日本各所が「統計を取り始めて以来最も厳しい暑さ」に見舞われていたことを覚えていますか。私が子どもだった40年ほど前の故郷では、35℃以上になる猛暑日はひと夏に数日程度だったと記憶しています。夏生まれの私は元々夏が好きで、天に向かってモクモク伸びていく入道雲を飽きずに眺めているような子どもでした。今はと云えば、「今日も大阪は猛暑日、危険な暑さにご注意を!」という毎朝の天気予報にうんざりし、どちらかと言えば冬の方が

得意なオジサンです。

昨夏の暑さは、日本だけでなく世界的なもの(地球温暖化の影響)であることが連日報じられました。20世紀以降の加速的な温暖化が人類のエネルギー大量消費に由来することは、今では疑いようのない事実です。昨年7月、国連事務総長が「地球沸騰化」という表現を使い強い危機感を表明しました。地球沸騰化は、猛暑日を増やすだけでなく、さまざまな形のリスク(異常気象災害、農林水産業への悪影響、未知の病原体出現など)となって私たちに襲いかかってくると予見されています。し

かし、80億を超えた人類の活動を「止める」ことはできません。唯一できることは「変える」ことです。

私たち工学系の人間ができること、すべきことは何でしょうか。新しいテクノロジーで脱炭素社会の実現に貢献すること、というのがトレンドのようです。もちろん、それをできる立場であり、託されていることに誇りと責任を感じ、日々精進するべきでしょう。でも、カッコいいことを言う前に、過ぎ去ったあの夏のことを思い出すところから始めてみましょうか、一人の人間として。

(システム理工学部 高橋可昌教授)

Attention 大学からの重要なお知らせ

春季休業期間中の注意事項

—有意義な春休みを過ごすために—

秋学期試験が終了すると春季休業に入ります。学生の皆さんの行動範囲は少しずつ広がることでしょ。しかし、同時にこの時期は、日常生活からの解放感とそれに伴う気の緩みが相まって、さまざまなトラブルに遭遇しやすくなる時でもあります。貴重な春休みを有意義に過ごし、新学期または新生活を迎えられるよう、特に次の点に注意してください。

学生生活の心得

かんだいLIFE



関大生としての自覚を忘れずに!

春季休業中は今まで以上に行動の範囲が広がりますが、周囲の人々や環境への配慮を怠らないでください。誰か一人の軽率な行為によって、大学の名誉や信用を失墜させる事態を招くだけでなく、他の学生への影響もあります。関大生としての自覚を忘れず、良識ある行動を心掛けるようにしてください。

悪質商法・カルト団体に注意!

大学生の間で、実際は何の価値もない商品やサービスを高額で購入させる悪質商法(ネットワークビジネスなど)やサークル活動を装ったカルト団体などによる悪質な勧誘が多発しています。たとえ親しい友人や知人から勧誘を受けた場合でも、少しでも怪しいと感じたら、容易に応じないようにしてください。

薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」

近年、大学生をはじめ若者の間で大麻による検挙者が急増し、深刻な社会問題となっています。大麻・覚せい剤をはじめとする違法薬物や危険ドラッグを安易に使用することは絶対にしないでください。あなた自身の健康や健全な学生生活を守るためにも、薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」

「闇バイト」は犯罪です!

昨今、SNSやインターネットの掲示板で「短時間で高額収入が得られる」などの甘い言葉で誘い、特殊詐欺の受け子・出し子や強盗の実行犯に加担する若者が増加しています。これらの行為は「闇バイト」といわれ、実際はアルバイトではなく犯罪です。絶対に安易な気持ちで手を出さないようにしてください。

関大トピックス



「笑てんか」をテーマに統一学園祭を開催

千里山キャンパスで11月2～5日の4日間、第46回関西大学統一学園祭を開催しました。ここ数年は新型コロナウイルスの影響により、オンライン開催や人数制限等を余儀なくされましたが、今年は4年ぶりに開催制限が撤廃された学園祭となりました。今年度のテーマは「笑てんか」。昨年度のテーマ「祭起動」を再び「点火」し、その火を絶やさず燃やし続け、関大生はもちろん地域住民の方など全ての来場者に愛される学園祭をつくり上げ、多くの方々に笑顔を届けたいという思いが込められています。期間中は好天に恵まれ、ステージや教室などのキャンパス内各所で学生が日々の成果を発揮し、披露される熱いパフォーマンスに観客は盛り上がりました。模擬店にも多くの来場者が見られ、キャンパス内には元気な声が響き渡っていました。来場者数延べ10万人を動員した西日本最大級の学園祭は、多くの笑顔と活気があふれ返るイベントとなりました。

ボランティア体験ツアー「関大グリーン大作戦～千里山キャンパス周辺の清掃～」を実施

11月13日に「関大グリーン大作戦～千里山キャンパス周辺の清掃～」を行いました。「関大グリーン大作戦」は、授業の合間に気軽にボランティアを行えるようキャンパス周辺を清掃する活動で、2010年度から千里山キャンパスをはじめ他キャンパス周辺でも実施してきました。

当日はあいにくの空模様でしたが、東門から山手町エリアの大学周辺を清掃しました。

参加した学生は、ボランティアセンター学生スタッフにごみ拾いの要領を教わりながら、和気あいあいとした雰囲気でごみを拾いました。学生たちは「なぜこんなところにごみが捨てられているのだろう」という疑問が生まれるなど新たな気づきがあり、清掃活動により力が入った様子でした。



関大防災Day2023を開催

11月20日に全6キャンパス(千里山・高槻・高槻ミューズ・堺・北陽・梅田)および東京センターで、本学独自の防災啓発行事「関大防災Day2023～広がり！みんなの安全・安心！～」を開催しました。

当日行われた「地震避難訓練」では、授業中にマグニチュード7.6の「上町断層直下型地震」が発生したと想定し、学生、生徒、園児および教職員の身の安全確保から、安否確認に至るまでを、本学オリジナルの「地震対応マニュアル」に基づいて実施。千里山キャンパス備蓄倉庫見学ツアーや備蓄食を活用した炊き出し訓練など、防災に関連したさまざまなイベントを開催しました。

今後起こり得る災害に備えて、学生、教職員をはじめ多くの地域住民が、「防災」に対する意識を高める機会となりました。



電動キックボードでの通学・入構は禁止です

2023年7月1日付で改正道路交通法が施行されたことに伴い、電動キックボード(特定小型原動機付自転車・特例特定小型原動機付自転車)に新たな交通ルールが適用されることになりました。

本学では、違法・迷惑駐車および騒音により教育環境や地域住民の生活環境に多大な悪影響を与えること、万一交通事故等が発生すれば学生生活に深刻な影響を及ぼすこと、また、キャンパス内の安全確保の観点から、自動車・原動機付自転車による通学・入構を禁止しています。

このたびの改正道路交通法では、電動キックボードは原動機付自転車と位置付けられておりますので、電動キックボードを利用した通学・入構を禁止します。



関大人 四方山話 ◆「関大KAISERS」誕生について

よちよちまばなし



2004年、「関大KAISERS」は関西大学体育会を統一するニックネームとして誕生しました。

当時、体育会本部では学生同士がそれぞれの部活動を尊重し、思いを一つにするにはどうすれば良いかについて意見交換が行われていました。そこで学生センターの事務職員から、アメリカの大学では体育局を統一したニックネームやロゴが設定されていることが一般的であることを紹介し、興味を持った学生と大学が話し合った結果、「応援歌」の一節からカイザー

(皇帝)の名称を取り、色はスクールカラーの紫紺で統一することを決めました。

この取り組みは、体育会全体が一つのチーム名を名乗るという全国でも非常にまれなケースで、これまでに約1万人の皇帝たちが誕生し卒業するなど、一大事業に発展しました。

その後「カイザーズクラブ」というNPO団体が誕生し、地域住民向けに総合型地域スポーツ文化クラブを展開するなど、ますますその裾野を広げています。皆さんも関西大学KAISERSを応援してくださいね。

管財局施設グループ長 松浦 雅彦

編集後記

今月号では、「ふるさとのお正月の『食』」について特集しました。冬休みに久々の里帰りをした方も多かったのではないのでしょうか。日本では1歳の誕生日に一升餅を背負い、桃の節句にひし餅を飾り、端午の節句にはかしわ餅、そして彼岸餅と、伝統的な行事に餅は欠かせないものです。両親の故郷で祖父母が丹精込めて作った米や餅を食べて育った私は、米は単なる主食というだけでなく、日本の心のようなものを感じてなりません。折に触れて餅をいただき、日本の文化について考えてみるのも良いかもしれませんね。(広報課 森田恵美子)



関西大学通信 “KANDAI STYLE”

発行日:2024年1月10日
発行:関西大学広報委員会
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35
電話:06-6368-1121(大代表)

今月の表紙

今月の表紙は「夢」です。皆さんには将来の夢、子どもの頃に思い描いた夢など、さまざまな夢が連想されるとと思いますが、ぜひ、明るい未来へ向けて夢を実現してください。挿電・イラストは書道部の仲嶋来美さん(化学生命工学部3年次生)にお願いしました。